裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　ＧＴ
山行ＮＯ.　　１８８７	
日　　時	2020 年 10 月 03 日（日）晴・上部寒い
山　　域	中ア・経ヶ岳（日本二百名山・２２９６ｍ）
コース	起床 4:00-仲仙寺発 5:15-四合目 6:34-五合目 7:07-七合目 7:58-八合目（展望台）8:43-九合目 9:06-経ヶ岳 9:40-九合目（昼食）-八合目 10:55-四合目 12:34-仲仙寺 13:29-見晴らしの湯-伊那 IC-長泉 18:30
累計標高差	上り　仲仙寺駐車場約 919m～経ヶ岳 2296m＝約 1377m 下り　　同上 ただし、権兵衛峠からは、標高差≒７００ｍ
藪漕度	上り　九合から笹が五月蠅い
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
50年、あたためた経ヶ岳	
参加者	後藤、加藤、星、合谷＝4 名

経ヶ岳を知ったのは、いつ頃だったか？？５０年前、山好きのＩハイクのＴさんに、例の口調で「アンタ、経ヶ岳って知ってるかね」が最初だった。

中アの山であるような、ないような。権兵衛峠でバッサリ、中アと分断され、華々しい花崗岩の巨峰に比べたら、余りに地味な山・不遇の山だろうか。

しかし、登山を５０年以上続け、年齢を重ねた現在、今、上らないと生涯上れない可能性がある。兎に角、一度上ろう。今回の登山動機だった。

キャンプでホイ

坊主岳を下山し、明日の経ヶ岳下見で伊那に移動。再び、権兵衛峠を潜り、羽広集落に向かう。

集落は、小高い丘陵に位置し、伊那扇状地が見渡せ、リンゴ・柿・キウイなどが、たわわに実っていた。経ヶ岳登山口は、羽広観音と呼ばれる十一面観音を祭った仲仙寺（ちゅうせんじ）境内にあった。寺は大きく立派。境内があまりに広く閑散としている。

登山口確認後、近くの「みはらしの湯」で温泉。日帰り温泉にしては大きな施設。露天風呂があって５００ーは安すぎる。入場の際、消毒・顔認証体温測定・住所記入があった。ＪＡＦは５０ー割引。温泉は、アルカリ系で良かった。露天から目を凝らすと、富士山みたいな山が見えたが方向が？？だった。テントは近くの某所で張った。

キャンプ場ではないが、天井があって濡れない・電灯・トイレ・水道完備で無料・静かの最高の場所で感謝・感謝でした。

夕餉は、鍋をつついた。酒も進み美味しかった。当夜は、満月が素晴らしかったと報告があったが私はトイレ時、何故か見ることが出来なかった。（山に隠れた？？）

珍しく女子が４時に起床。男子も起きる。昨夜は、隣のＧＹの鼾が五月蠅く、いささか寝不足。夜は高原だが、寒くなかった。テキパキとテントを撤収し、外で朝食。昨夜の鍋ベースの雑炊。味はマアマア。美味しかった。駐車場に移動し、暗い中５：１５、ヘッドランプで出発。羽広観音（十一面観音）にお経を唱えお参りする。全員、巡礼者で違和感はない。

仲仙寺・羽広観音

登山口

夜が明けるまで、アカマツ林を進む。梢に街の灯りがチラホラ。全く音がない静寂な山。靴音だけ響く。今日は、標高差が１３００ｍある。気持ちが入る。６時前、夜が明けた。Ｋが「マツタケの臭いがする」と騒ぐ。帰路、探したが見つからなかった。道は四合下まで山腹をトラバースで歩き難い。本来は尾根道だったと思う。

登山は標高差が１０００ｍ以上あると厳しくなる。普通、標高差３００ｍを１時間掛かる。１３００ｍだと４時間以上の計算。当然、下りも上りの８割程度掛かる。ひたすら上るのみ。歩き難い笹が多い。女子が何か見つけた。右下の林の笹の中に「カモシカ」がいるという。だが、保護色でハッキリしない。薄暗いうえ、目も悪いので分かりにくい。Ｈは「生まれて初めて見た」と大いに喜んだ。

横断道が終わると、右下の大泉所ダムから伸びる道と合流する四合目着。ダムからの道は寺道より３０分ほど早いらしい。ただ、初めて上るなら、やっぱり寺からがイイだろう。

登山道は四合から五合、六合と続く。辺りに「ジゴボウ」（花猪口）がチラホラあった。下山時に採取しよう。七合は、ちょっとしたピークで少し展望があった。

先は八合まで長かった。延々と唐松林が伸びていた。笹は狩ってあり気持ちは良い。八合は、コース唯一の展望台だった。

八合目

　先行者が一人。本日、トップの登山者だった。先に行ったＫと話していた。東京・山楽会のＳさん、６１歳だった。今朝、ダムから上った。聞けば、山岳スキーもやると言った。明日は「何処ですか」と聞いたら、「会の飲み会で帰る」だった。名刺を渡した。

　八合からピークを二つ越える。しかも、笹が酷くなった。帰りに会った伊那の若い衆の話では、夏に山岳マラソンがあるという。

　こんな酷い笹で走れるだろうか。道幅も狭いのでほとんど抜くことも出来ない。マラソンをやるなら、もう少し整備したほうが良さそうだ。

九合手前

ヤナギラン紅葉と種子

九合手前に、何処かで見たような枯花が沢山あった。葉が紅葉し白い綿毛が長かった。たぶん「ヤナギラン」と思った。帰って確かめたら、やっぱり「ヤナギラン」だった。夏上れば見られそうだが、ここを夏上るのは考えられない。

九合を越えて再び下り、最後の上り。北西の風が冷たく、手袋・上着を着けた。枯れ木を越えて頂上着。Ｓさんは既に着いていた。頂上は、モミの木（？）が邪魔し展望は良くない。

頂上手前

頂上

　昨日、上った坊主岳は、北西にすぐ近くだが良く分からなかった。細長い石仏が東の仲仙寺を向いていた。石仏は十一面観音像だろうか。ただ、ネットを見たら歴史的なものでなく「知り合いの電気工事屋さんのお父さん作の観音様」とあった。マジか・・・。(;´д`)

　兎に角、寒かった。北風があるので、体感温度は１０度以下だろう。寒いので写真を撮って貰い来た道を下山。しかも、足元を笹が邪魔して不安定なこと。

下からゾロゾロ、たくさん登山者が上って来る。いつもとは逆でこれから上る登山者を「励まし下る」のは、悪い気分でなかった。

北風に追われるように下る。帰って知ったが、実は権兵衛峠に下る道があった。こちらは寺コースの半分の時間で下れる。道も悪くない。縦走で短時間ならいうことはない。残念だった。

昼食に早かったが、早朝登山で空腹を覚えた。風が弱い九合目で早い昼食。土曜日でゾロゾロ上って来る。一人の年配者が来た。単独だった。

両手ストックだった。やや疲れた感じ。「お幾つですか」と聞く。私と同年配と踏んだが、一歳若かった。しかし、単独でこのコースを上るのは偉い。大いに励まし送った。

下山

昨日の登山もあり、膝が重たい。痛くはないが、スッキリしない。途中、頂上付近で会った若い衆に何人か抜かれた。若い衆は、「ピョンピョン」下って行く。だから速い。我々は「ドテドテ」だから遅い。

八合　　伊那の若い衆

八合で地元、伊那の若い衆と交流。トラックの運転手で毎週、静岡・浜松に来るという。前述の山岳マラソンをここでやっているという。コースの手入れもするそうだ。

六合付近で「ジゴボウ」を沢山ゲットした。帰って味噌汁で３日間食べた。美味しかった。前日

九合下（後ろが八合）

は、バター炒めだったが、これも美味しかった。秋はキノコが楽しみだ。ただ、今年「タマゴダケ」は全くダメだった。下から沢山上って来た。単独の年配者・アベック・単独女子などなど、１０名以上。土曜日といえ意外。地味な山で不思議だが人気の山だった。

最後に重荷の若い衆。聞けば「八合目で泊まる」という。「えええ～、わざわざ？？！！日帰りではダメ」に、笑っていた。ま、「これが若さだろうね」で納得。

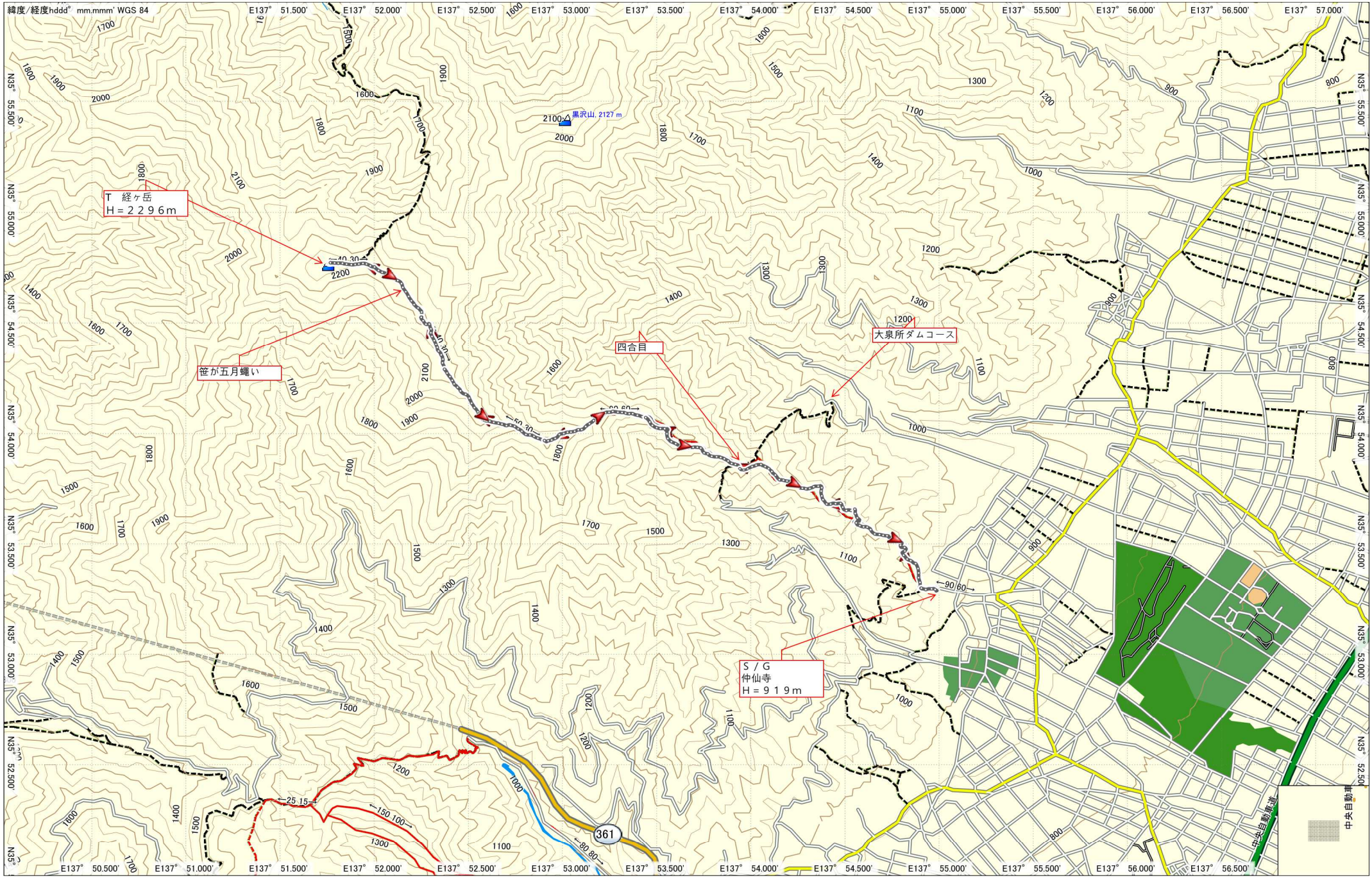
ニ～三合付近で、女子が「マツタケ」を探したが結局なかった。臭いはするというが残念。寺に戻り、安全登山に感謝し、境内の梵鐘を一打する。「心を込めて打て」と注意書きがあった。いい音色で山々にコダマした。

下山後、昨日の「みはらしの湯」に浸かり、下のソバ屋で名物の「ソースカツどん・ソバ」セットを食べた。伊那の「ソースカツどん」は、ボリューム満点で凄い。昨年暮れ、空木岳冬山時も食べたが、ソバが食べきれなかった。

今回もソバが残った。若いＧＹは全て平らげた。ほか三名は、食べ残しは失礼だから、「お土産」にして貰った。

その日に帰静。念願の山に上れて良かった。手ごたえ十分で記憶に残る山だろう。

（了）



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2020/10/04 13:56:57

0 m 350 m 700 m 1050 m 1400 m

GARMIN.

MN TN
-7.8°
2010/01/01